

評価対象年度	平成26年度
--------	--------

# 政策評価シート

政策	4
----	---

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	4 アジアに開かれた広域経済圏の形成	政策担当部局	震災復興・企画部, 環境生活部, 経済商工観光部, 農林水産部, 土木部
			評価担当部局	経済商工観光部

## 政策の状況

### 政策で取り組む内容

中国をはじめ成長を続ける東アジアや極東ロシアを中心に海外市場開拓の機会が拡大しており、県内企業の海外販路開拓を積極的に支援する。

さらに、県内産業の競争力の強化に向け、工場や研究所などの外資系企業誘致も積極的に進める。

また、経済のグローバル化が進む中で、東北地方以外の他の地方との競争に打ち勝ち、自立できる強い経済基盤を持つ地域を作り上げていく必要がある。県を単位とした範囲のみでは限界があることから、東北各県との連携及び機能分担により広域経済圏を形成し、圏域として自律的に発展できる産業構造を構築する。

特に、山形県との連携については、仙台、山形の両都市圏を中核とする一体的圏域が高次の学術機能、産業創出機能や広域交流のネットワーク基盤を有することから、グローバルな戦略を進めていく上で、東北の成長・発展をけん引する役割を担うものとして重要である。両県において将来像を共有しながら、岩手県や福島県とも効果的な連携を進め、アジアに開かれた広域経済圏の形成を図る。

### 政策を構成する施策の状況

施策番号	施策の名称	平成26年度 決算(見込) 額(千円)	目標指標等の状況			施策評価
			実績値 (指標測定年度)	達成 度		
8	県内企業のグローバルビジネスの推進と外資系企業の立地促進	86,321	宮城県の貿易額(県内港湾・空港の輸出入額)(億円)	12,377億円 (平成26年)	A	やや遅れている
			県の事業をきっかけとした海外企業等との年間成約件数(件)	10件 (平成26年度)	C	
			企業誘致件数(進出外資系企業数)(社)[累計]	10件 (平成26年度)	B	
9	自律的に発展できる経済システム構築に向けた広域経済圏の形成	20,257,936	全国平均と比較した東北地方の一人当たり県民所得の割合(%)	- (平成26年度)	N	やや遅れている
			東北地方の転入超過数(他ブロックとの比較順位)(位)	6位 (平成26年)	A	
			東北地方の延べ宿泊者数(観光目的50%以上・従業員数10人以上の施設)(万人)	1,842万人 (平成25年)	B	
			東北地方の完成自動車の港湾取扱貨物量(移出分)(万トン)	545万トン (平成25年)	B	

- 達成度 A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」
- C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」
- 達成率(%) フロー型の指標: 実績値/目標値 ストック型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値)
- 目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)

**政策評価（原案）**      やや遅れている

評価の理由・各施策の成果の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策4「アジアに開かれた広域経済圏の形成」に向けて、2つの施策に取り組んだ。</li> <li>・施策8については、商談会の開催等を通して、県内企業の販路開拓・拡大に向けて取り組んだ結果、販売や商談が成立するなど一定の成果が得られたが、一方で中国や韓国での輸入規制解除の見通しが立たない状況が続き、「県の事業をきっかけとした海外企業等との年間成約件数」の達成率が28.6%と低調であったことから、「やや遅れている」と評価した。</li> <li>・施策9については、山形県との連携で新たに、宮城・山形両県の連携交流団体のネットワークを形成するとともに、とうほく自動車産業集積連携会議を中心に展示商談会の開催やセミナーの相互参加を実施するなど、東北各県が一体となった活動の展開により、広域経済圏の形成が着実に進められている。その一方で、東日本大震災の影響や復興需要が徐々に頭打ちとなっていることなどから、依然として目標を達成していない指標もあるため、「やや遅れている」と評価した。</li> <li>・以上のとおり、施策8、施策9ともに「やや遅れている」と評価しており、政策全体としても「やや遅れている」と評価する。</li> </ul>

**政策を推進する上での課題と対応方針（原案）**

課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策8については、戦略的、継続的に事業を実施し、県内雇用の創出が促進されるよう海外販路支援を実施していく必要がある。</li> <li>・進出対象地域については、中国、韓国を主軸として展開していく必要があるが、過度の中韓依存のリスクに備え、中韓以外の東アジア、東南アジアでの展開を図るほか、ロシアとの関与を深め、また、欧米での「Miyagi Brand」を普及させていく必要がある。</li> <li>・施策9については、東日本大震災からの復興需要に伴う経済活動の活性化にとどまらず、数年後をにらんだ需要創出・競争力強化策を講じる必要がある。</li> <li>・全国的には東京圏に人口が集中する傾向が強まっており、東北地方が一体となって地域活性化に取り組む必要がある。</li> <li>・東日本大震災による風評の影響が根強く残っており、外国人観光客の回復を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外事務所の知見を一層活用し、地域のニーズを県内企業に提供するとともに、確度の高いマッチングを行うことにより成約率の向上を図る。</li> <li>・中国、韓国に販路を求めている企業に対して、相談事業やセミナーの開催等を通じ、ニーズに応じた海外ビジネス情報を提供していく。</li> <li>・台湾でのビジネス支援やマッチング機会の創出、ロシアを対象にした専門家によるビジネス支援に加え、ベトナムを中心とした東南アジアでのビジネスの可能性について探求する。</li> <li>・東北各県合同による自動車関連商談会や海外共同事務所を利用した商談会の実施など、ビジネスチャンス獲得を支援するスケールメリットを活かした事業を推進する。</li> <li>・山形県との連携基本構想の着実な推進や北海道・東北未来戦略会議で広域経済活性化策を検討・実施することで東北全体の経済の底上げを図り、人口の流出を防ぐ。</li> <li>・東北各県や東北観光推進機構などと連携しながら、マスコミや観光関係者の招請を継続し、正確な観光情報の発信を行うことにより、国内外からの交流人口の増加を図る。</li> </ul>